

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370800494		
法人名	医療法人社団 直心会		
事業所名	森の里グループホーム やちよ桜 (やちよ通り)		
所在地	熊本県山鹿市山鹿900-2		
自己評価作成日	平成21年12月16日	評価結果市町村報告日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年12月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

温泉地域に位置するやちよ桜は、木造で温かみを感じられる建物で、その環境の利を最大限に生かし、とすれば疎遠になりがちな地域社会との交流を積極的に日々の生活に取り入れ、安全に最大限留意しつつも『今までの生活の延長線』上にある生活の実現を目標にしています。ホームの廻りには、数多くの温泉施設もあり、利用者様と家族様が一緒に日帰り温泉を楽しめる環境にもあり、入居者様・家族様のもたいへん喜んでおられます。また、母体である森の里クリニックからの協力も得られ、常に情報の共有に努め、緊急な対応が必要になった場合においても、素早い対応が実行できます。関連事業所の職員らとの接する機会を多く持ち、ケアについての情報交換・勉強会を行っている。また、介護技術の向上のため研修など積極的に参加し、入居者と家族にとって安心できる暮らしの環境が提供されるように日々努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年度は各ユニット毎に主任を配置し、管理者・主任を核とした業務の見直しを行うことにより、より質の高いケアサービスが提供できるホーム運営を目指してきた。ホーム理念とは別にユニット毎のより詳細な理念の作成や、チームケアのための会議の設置、他のグループホームへの実務実習、管理者による個人面談など、職員の意識向上や意見の反映のための新たな取り組みを実施し、確実に効果をあげている。医療関係機関との連携も良好で、入居者や家族の安心した生活環境が提供されている。今後は、地域との協力関係や家族との信頼関係構築に向けた継続的な取り組みや、認知症啓発の拠点としての活躍が期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔がいっぱいくつろげる 我が家」を理念に、設立当初からグループホームの理念を掲げている。朝礼時、職員と管理者が理念の共有をする為、毎日理念の元にケアをしていくことを伝えている。	分かり易い理念を掲げ、朝礼やユニットでのミーティングで確認し理念の実現に努めている。また、掲示する場所や運営推進会議で使用する資料への掲載にも工夫し、理解してもらおうための配慮をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年まで地域・施設行事において、地域の方との交流がありました。今年には施設で犬を飼う事で、毎朝の散歩に出かけ、利用者・職員が地域の方と気軽に声を掛け合う風景を目にすることができるようになってきている。地域の一員として区役を行っている。	散歩や外出の際に挨拶や会話を積極的に行い、地域行事にも参加している。自治会にも加入しており、区役を務めるなど地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校での「認知症とは」いう題目での話や、高校生職場体験、大学生職場研修などを受け入れ、実践をとうし、認知症の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をとうして、入居者の生活状況や施設の現状を伝え、地域の方へも認知症の方の理解やどのように接するとよいかなど、よい意見の交換の場となっている。	行政職員・民生委員・家族の代表・ボランティア・認知症サーポーター等のメンバー構成で定期的開催されている。入居者の状態や行事・研修報告などを、パソコン機材を使って分かりやすく報告されている。	毎回の運営推進会議の議事録を整備し、いつでも閲覧可能な状態にしておくことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に山鹿市地域包括支援センター職員の方も参加していただき、蜜に情報の共有化を図っている。	運営推進会議に出席してもらうほか、相談や情報交換などで連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ「身体拘束とは」という題目で研修を行い、身体拘束への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。地域で事故や事件も耳にすることもあり、玄関は外部からの侵入を防ぐ上で、	全職員が研修会に参加しており、身体拘束の弊害を含め理解している。時間毎の人員を確認することで、徘徊への対策を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ「虐待とは」という題目で研修を行い、虐待への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。		

森の里グループホーム やちよ桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の中で職員へ説明・指導を行っている。施設窓口を決め家族様や地域の方より相談があった際に、対応ができる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用していただく前に、本人様又は家族様へ契約内容の説明を行い、納得していただいた上で施設利用をしていただくようにしている。又、施設利用内容に変更が生じた場合には、速やかに家族様へ説明を行い、利用継続の有無を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「運営推進会議」や「地域と家族の集い」という場を設け、地域の方と利用者家族様が話しができる環境がある。そこでアドバイスいただいた内容については、職員会議で話し合い改善を図っている。	面会時・運営推進会議や家族会などを、家族の意見や要望を聞く機会として捉えている。出された意見に対しては早急の話し合いと改善を図るようにしている。ホーム便りは年3回発行し、ホームでの生活の様子もDVDに収めて配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談月(7月・12月)を設け、職員が管理者へ相談できる環境を整えている(1年/2回)1対1で話し合うことで安心して職員が何でも話すことができ、モチベーションUPにも繋がっている。	管理者は業務中や会議の際にできるだけ職員の意見に耳を傾けるように心がけ、また年に2回は個人面談を実施し、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況におきましても、職員の離職も少なく、労働時間・勤務内容を見直し、職員が安心して働くことができ、目標を持ち仕事に取り組むことのできる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が目標をもてる職場を念頭に置き、施設内外への研修への参加ができるように配慮している。その為、介護福祉士合格・看護学校合格など仕事をしながら勉強ができる環境にもおかれていると思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックにおいて連絡が密に取れるネットワーク作りの環境を整えている。ブロック内での交換研修も行い、同業者が交流のでき、相談・アドバイスなどができる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人様・家族様へお会いし、話し合うことで、その方が安心して施設利用でき、職員へも利用者の方の情報を周知することで安心した環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、サービス内容を一緒に話し合い、施設側が決めた生活にならないことを伝え、施設を理解していただき、密なコミュニケーション		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族への面談を行い、利用者様のアセスメントを作成し、本人・家族が今一番必要をしていることを見出し、今後繋がるケアプラン・環境作りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は理念にもあるように「我が家」という気持ちを常に持ち、介護をしているのではなく一緒に生活をしているという思いで過ごしている為、利用者と共に食事を作ったり、洗濯物を畳んだり、利用者の方よりいろんなことを教えていただける環境にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の集い」など施設イベントは施設側が計画運営まで行うのではなく、家族と共に行っている。利用者・家族・職員が一つの家族という思いを持ち共に支え合い、やちよ桜という家になれるよう努力している。家族の集いとは、利用者家族同士が集うという意味ではなく、やちよ桜の家族が集うということで計画をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のバックグラウンドを大切に、これからの生活に活かしている。思い出の場所へドライブに行き、馴染みの方の面会をお願いしたりと、その方が施設を使用されていても、これまでの生活の中で合ったものはなくなるという思いで支援している。	入居前の馴染みの関係を把握することで、今までの行きつけの美容室や友人の訪問などを支援するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境面において利用者同士が向かい合い会話ができる環境を作り配慮している。環境を配慮することで新たな関係づくりができ、利用者同士が支えあうことのできる関係づくりができている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了してからも行事等の案内を行い、「我が家」を理念に常に活動をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子を観察し、利用者と職員との細かなコミュニケーションをとる事で、ニーズを把握し職員間での情報・共有を行っている。カンファレンスを実施し、その方に併せた、より良い生活が出来る様に努める。	日頃の関わりや家族からの情報を収集することで、入居者の希望に応じられるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みや施設見学に来られた時など、本人様の生活歴・病歴などを尋ね、現状を把握し、今後のケア方針に生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員による日常の生活状況の様子観察と、入居申込みや施設見学に来られた時など、本人様の生活歴・病歴などを尋ねた事をアセスメントし、情報の共有、ケアの方針の確認を行っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に対して、ケアに関する意向や希望を確認している。(来設時など)又、本人様の希望や心身の状況も考慮しながら、介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心にアセスメントを行い、家族や本人の要望も取り入れた介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行ない、半年毎の見直しも実施している。随時見直すことで、現状に即した支援に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状況は、それぞれのカルテへ記載し、職員間での共有出来る様にしている。又朝礼・終礼(申し送り)を実施する事で、より良いケアが出来る様に配慮している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な施設新聞の発行や家族会の開催など、家族様や施設の状況やニーズを伝え、地区内での行事へも参加する事で、施設の持つ機能性や役割を理解していただいている。	

森の里グループホーム やちよ桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の「サロン」へ入居者の方々の参加を促している。地域との関わりを持つ事で、人的交流も広めたり気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期・不定期問わず、受診時は職員引率でできる体制を整えている。他科受診の場合は、家族様へ希望医療機関を確認し、受診を行っている。又、日々の状況を記録し、受診時等には主治医との綿密な連携がとれるようにしている。	以前からのかかりつけ医や希望する医療が受けられるように支援している。通院介助も行き、受診後は家族に報告している。家族との連携は常に図るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時、重要と思われる事項については、主治医又は訪問看護師へ適宜、報告・連絡を行い情報の共有化を図っている。看護記録へも記載することで本人様の現在の状況を把握することも出来、訪問時、看護師へ確認していただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域病院の相談員との連携をとっている。入院時は施設での状況・心身状態を提供する事で情報を共有し適切で安心した治療が受けられる事が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方向性や要望は、適宜家族様へ確認するようにしている。必要に応じて主治医より現在の身体の状態なども説明していただいている。重度化した場合については、入居前の説明と一緒にっており、そのような状況になった場合は、随時ケアの方向性について話し合いを持っている。施設側もチーム体制を作り、主治医・訪問看護師・施設看護師・管理者・介護支援専門員と共に連携している。	重度化した場合の説明は入居時にも行っているが、急変時等には主治医と管理者とで相談し家族への説明を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的な研修の中で、研修計画を作成し、事故発生時の施設内研修を職員へマニュアルに沿った対応が出来る様に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの時は、職員が直ぐに集まることの出来る様に職員緊急連絡網を作成している。又、市町村役場との連携がとれる様にしている。	消防署立会いのもと、年2回昼夜想定での避難訓練を実施している。運営推進会議で地域への協力依頼も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の生活歴・性格(バックグラウンド)をしっかりと把握・理解して、言葉掛けには配慮している。	入居者一人ひとりの尊厳を保つような、言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出希望など本人様が希望される際は、一緒に外出できる様対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の流れはあるが、個々のニーズ(ケアプラン)の沿ったケアを行い、その人らしく日々を過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など個々の好みの服を選択していただく様にしている。散髪など本人様が好まれる美容室などへも一緒に行き、おしゃれが出来る支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者様へ会話の中で聞き、献立作を成している。食事は利用者様と職員と一緒に調理し食事を楽しむ時間を共に過ごしています。	入居者の好みや季節感を取り入れた献立を作成している。買い物や調理の下ごしらえは出来る入居者と一緒に行なっている。食事は職員も同じものを取り、入居者の嚥下能力に応じた食事形態を提供している。	入居者への食事介助ばかりでなく、話題提供などで楽しい食事の雰囲気盛り上げられることが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量には、毎日チェックを行っている。必要時は、水分量IN/OUTチェックも行い経過観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯/口腔内洗浄を行い、清潔保持に努め、感染予防も行っている。うがいの時はイソシंगाールを使用している。		

森の里グループホーム やちよ桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況に合わせた排泄介助を行っている。トイレで自力排尿が出来る方やトイレ誘導介助が必要な方など、出来る限りオムツなどを使用せず、自然排尿が出来るよう支援している。	声かけ誘導やトイレ誘導など、各入居者に合わせた排泄支援を行なっている。出来るだけオムツに頼らない自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションや散歩などで体を動かしたり、日常生活リハビリを個々には取り入れたりと対応している。食事水分の摂取量の把握を行い排便チェックも行っている。必要時は主治医と相談又は受診し支持をうけ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方に合わせた入浴を行っている。山鹿は温泉地に位置する為、数名で入浴したいという方がいらっしたり、朝入浴したいという方が多く、その方個人個人に合わせた入浴を楽しめることの出来るようにしている。	まず入居者の希望を優先し、入浴拒否の方にも時間を置いての誘導や入居者同士による誘導で入浴を支援している。ホーム近隣の馴染みの温泉にも頻繁に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて昼食後、「お昼寝」の時間を作り、又は夜何時に就寝しなければいけないという事ではなく、本人様が安心して気持ちよく休むことが出来るよう、会話やTV鑑賞など行い楽しく安心することの出来る環境作りも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬については、服薬一覧表を作成し職員が副作用や用法などについて把握できるよう配慮している。服薬内容の変更など随時施設看護師からの説明・申し送りを行い、職員の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことなど把握し支援している。一人ひとりの状態に合わせた支援はまだまだ勉強し、努力する必要がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅を希望されるは、家族とも相談し自宅へ送迎をしたり、近隣の散歩に行ったりしている。又は、お墓参りや買い物など家族の方と協力し、外出できるように支援している。	職員体制や天候・健康状態に配慮して、希望に沿う外出支援をしている。毎月のドライブや花見・ホテル見学なども実施している。	



森の里グループホーム やちよ桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は付き添い、希望の物を購入される場合はお金を渡し、本人様にお支払いをしていただけるようにしている。金銭の管理は施設にて行っているが、お金を持つことの大切さを職員もしっかりと理解し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話など無い為、電話をする際は、職員が電話の準備をしている。本人様を利用されたいときに利用して頂いている。家族様へも連絡先を伝え、いつでも連絡が入居者様ととれる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりとして、季節感を感じることの出来る飾り付けや食事作りを行うことで、利用者様と楽しい会話の時間も出来ている。居室では個々の生活合わせた環境作りを行い、出来る限り自宅で使用していたものを持ってきていただくように努めている。	季節感や家庭的な雰囲気大切に、花や観葉植物・職員手作りによる盆栽や入居者の手作り作品などを飾っている。各ユニットの入居者に合わせた家具の配置もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活をされる中で新たな関係作りを把握し、気の合う利用者同士が会話の出来るよう、椅子の位置など環境作りに努めている。気持ちが不安定な方や一人になりたい方など安心して生活が出来るよう職員が寄り添い居室などで会話やマッサージなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居前に使用していた物や本人の浸し身のある物など本人様の混乱を招かない様にする為、居室に持ってきていただけるように家族様へ説明を行っている。本人様や家族様の希望により随時お部屋の模様替えも行っていただいている。	入居前に使用されていた生活用品や家具が持ち込まれている部屋もある。身体能力や以前の生活習慣に合わせた敷かれている部屋もある。	各入居者にとって居心地の良い居室作りへの更なる支援が期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「できること」「わかること」を職員は把握し支援している。玄関や浴室・トイレなど利用者様が安心して安全に自立した生活が送れるよう手すりを設置ハード面の見直しも行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800494		
法人名	医療法人社団 直心会		
事業所名	森の里グループホーム やちよ桜 (さくら通り)		
所在地	熊本県山鹿市山鹿900-2		
自己評価作成日	平成21年12月16日	評価結果市町村報告日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉地域に位置するやちよ桜は、木造で温かみを感じられる建物で、その環境の利を最大限に生かし、とすれば疎遠になりがちな地域社会との交流を積極的に日々の生活に取り入れ、安全に最大限留意しつつも『今までの生活の延長線』上にある生活の実現を目標にしています。ホームの廻りには、数多くの温泉施設もあり、利用者様と家族様が一緒に日帰り温泉を楽しめる環境にもあり、入居者様・家族様のもたいへん喜んでおられます。  
また、母体である森の里クリニックからの協力も得られ、常に情報の共有に努め、緊急な対応が必要になった場合においても、素早い対応が実行できます。関連事業所の職員らとの接する機会を多く持ち、ケアについての情報交換・勉強会を行っている。また、介護技術の向上のため研修など積極的に

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔がいっぱいつろげる 我が家」を理念に、設立当初からグループホームの理念を掲げている。朝礼時、職員と管理者が理念の共有をする為、毎日理念の元にケアをしていくことを伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年まで地域・施設行事において、地域の方との交流がありましたが、今年は施設で犬を飼う事で、毎朝の散歩に出かけ、利用者・職員が地域の方と気軽に声を掛け合う風景を目にすることができるようになってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校での「認知症とは」という題目での話や、高校生職場体験、大学生職場研修などを受け入れ、実践をとうし、認知症の方の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をとうして、入居者の生活状況や施設の現状を伝え、地域の方へも認知症の方の理解やどのように接するとよいかなど、よい意見の交換の場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に山鹿市地域包括支援センター職員の方も参加していただき、蜜に情報の共有化を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ「身体拘束とは」という題目で研修を行い、身体拘束への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。地域で事故や事件も耳にすることもあり、玄関は外部からの侵入を防ぐ上で、		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ「虐待とは」という題目で研修を行い、虐待への理解を深め入居者が安心して安全に生活が送れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の中で職員へ説明・指導を行っている。施設窓口を決め家族様や地域の方より相談があった際に、対応ができる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用していただく前に、本人様又は家族様へ契約内容の説明を行い、納得していただいた上で施設利用をしていただくようにしている。又、施設利用内容に変更が生じた場合には、速やかに家族様へ説明を行い、利用継続の有無を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「運営推進会議」や「地域と家族の集い」という場を設け、地域の方と利用者家族様が話しができる環境がある。そこでアドバイスいただいた内容については、職員会議で話し合い改善を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談月(7月・12月)を設け、職員が管理者へ相談できる環境を整えている(1年/2回)1対1で話し合うことで安心して職員が何でも話すことができ、モチベーションUPにも繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況におきましても、職員の離職も少なく、労働時間・勤務内容を見直し、職員が安心して働くことができ、目標を持ち仕事に取り組むことのできる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が目標をもてる職場を念頭に置き、施設内外への研修への参加ができるように配慮している。その為、介護福祉士合格・看護学校合格など仕事をしながら勉強ができる環境にもおかれていると思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックにおいて連絡が密に取れるネットワーク作りの環境を整えている。ブロック内での交換研修も行き、同業者が交流のでき、相談・アドバイスなどができる環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人様・家族様へお会いし、話し合うことで、その方が安心して施設利用でき、職員へも利用者の方の情報を周知することで安心した環境作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、サービス内容を一緒に話し合い、施設側が決めた生活にならないことを伝え、施設を理解していただき、密なコミュニケーションをとっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族への面談を行い、利用者様のアセスメントを作成し、本人・家族が今一番必要をしていることを見出し、今後繋がるケアプラン・環境作りを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は理念にもあるように「我が家」という気持ちを常に持ち、介護をしているのではなく一緒に生活をしているという思いで過ごしている為、利用者と共に食事を作ったり、洗濯物を畳んだり、利用者の方よりいろんなことを教えていただける環境にある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の集い」など施設イベントは施設側が計画運営まで行うのではなく、家族と共に行っている。利用者・家族・職員が一つの家族という思いを持ち共に支え合い、やちよ桜という家になれるよう努力している。家族の集いとは、利用者家族同士が集うという意味ではなく、やちよ桜の家族が集うということで計画をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のバックグラウンドを大切に、これからの生活に活かしている。思い出の場所へドライブに行き、馴染みの方の面会をお願いしたりと、その方が施設を使用されていても、これまでの生活の中で合ったものはなくならないという思いで支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	環境面において利用者同士が向かい合い会話ができる環境を作り配慮している。環境を配慮することで新たな関係づくりができ、利用者同士が支えあうことのできる関係づくりができている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了してからも行事等の案内を行い、「我が家」を理念に常に活動をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子を観察し、利用者と職員との細かなコミュニケーションをとる事で、ニーズを把握し職員間での情報・共有を行っている。カンファレンスを実施し、その方に併せた、より良い生活が出来る様に努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みや施設見学に来られた時など、本人様の生活歴・病歴などを尋ね、現状を把握し、今後のケア方針に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員による日常の生活状況の様子観察と、入居申込みや施設見学に来られた時など、本人様の生活歴・病歴などを尋ねた事をアセスメントし、情報の共有、ケアの方針の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に対して、ケアに関する意向や希望を確認している。(来設時など)又、本人様の希望や心身の状況も考慮しながら、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状況は、それぞれのカルテへ記載し、職員間での共有出来る様にしている。又朝礼・終礼(申し送り)を実施する事で、より良いケアが出来る様に配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な施設新聞の発行や家族会の開催など、家族様や施設の状況やニーズを伝え、地区内での行事へも参加する事で、施設の持つ機能性や役割を理解していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の「サロン」へ入居者の方々の参加を促している。地域との関わりを持つ事で、人的交流も広めたり気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期・不定期問わず、受診時は職員引率でできる体制を整えている。他科受診の場合は、家族様へ希望医療機関を確認し、受診を行っている。又、日々の状況を記録し、受診時等には主治医との綿密な連携がとれるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時、重要と思われる事項については、主治医又は訪問看護師へ適宜、報告・連絡を行い情報の共有化を図っている。看護記録へも記載することで本人様の現在の状況を把握することも出来、訪問時、看護師へ確認していただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域病院の相談員との連携をとっている。入院時は施設での状況・心身状態を提供する事で情報を共有し適切で安心した治療が受けれる事が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方向性や要望は、適宜家族様へ確認するようにしている。必要に応じて主治医より現在の身体の状態なども説明していただいている。重度化した場合については、入居前の説明と一緒にっており、そのような状況になった場合は、随時ケアの方向性について話し合いを持っている。施設側もチーム体制を作り、主治医・訪問看護師・施設看護師・管理者・介護支援専門員と共に連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的な研修の中で、研修計画を作成し、事故発生時の施設内研修を職員へマニュアルに沿った対応が出来る様に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの時は、職員が直ぐに集まることの出来る様に職員緊急連絡網を作成している。又、市町村役場との連携がとれる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが理念を心がけ対応し、ユニット内でもサブ理念を掲げ、取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で話す内容をしっかりと受け止め、申し送りノートなど使用し職員が同じケアが出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の流れはあるが、個々のニーズ(ケアプラン)の沿ったケアを行い、その人らしく日々を過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から化粧をされる方もおられ、女性職員と一緒に化粧をするなど、いつまでもおしゃれを忘れない、いつまでも若くという思いを尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者様へ会話の中で聞き、献立作を成している。食事は利用者様と職員と一緒に調理し食事を楽しむ時間を共に過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量には、毎日チェックを行っている。必要時は、水分量IN/OUTチェックも行い経過観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯/口腔内洗浄を行い、清潔保持に努め、感染予防の為、うがい薬はイソジンがーゲルを使用している。うがい薬を飲み込まれる方もいらっしゃる為、個々に合わせた口腔ケアの方法を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況に合わせた排泄介助を行っている。トイレで自力排尿が出来る方やトイレ誘導介助が必要な方など、出来る限りオムツなどを使用せず、自然排尿が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックシート確認などを行い、食事時の献立など職員間でも話し合い入居者の方へ応じて食事作りへも取り組んでいる。又、日常生活リハビリを個々には取り入れている。必要時は主治医と相談又は受診し		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前日の本人様の状態などに応じて、声掛けを行い、個々に沿った入浴支援を行っている。私はこの人と一緒に入りますなどと言われる方もおられ、けして入浴を強制することを行わない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間の生活状況、色々と個々に状態が異なる為、日中はお昼寝をされる方もおられる。本人様の生活状況を把握し支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬については、服薬一覧表を作成し職員が副作用や用法などについて把握できるよう配慮している。服薬内容の変更など随時施設看護師からの説明・申し送りを行い、職員の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調で退屈にならない様、他の職員と協力し、炊事・家事手伝いに声掛けし、楽しみながら参加しやすい様努力している。一人ひとりの生活歴や得意なことなど把握し支援も		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅を希望されるは、家族とも相談し自宅へ送迎をしたり、近隣の散歩に行ったりしている。又は、お墓参りや買い物など家族の方と協力し、外出できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は付き添い、希望の物を購入される場合はお金を渡し、本人様にお支払いをしていただけるようにしている。金銭の管理は施設にて行っているが、お金を持つことの大切さを職員もしっかりと理解し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話など無い為、電話をする際は、職員が電話の準備をしている。本人様を利用されたいときに利用して頂いている。家族様へも連絡先を伝え、いつでも連絡が入居者様ととれる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりとして、季節感を感じることの出来る飾り付けや食事作りを行うことで、利用者様と楽しい会話の時間も出来ている。居室では個々の生活合わせた環境作りを行い、出来る限り自宅で使用していたものを持ってきていただくように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活をされる中で新たな関係作りを把握し、気の合う利用者同士が会話の出来るよう、椅子の位置など環境作りに努めている。ソファを4箇所配置し個々が気分でする場所を選択できる様な配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居前に使用していた物や本人の浸し身のある物など本人様の混乱を招かない様にする為、居室に持ってきていただけるように家族様へ説明を行っている。本人様や家族様の希望により随時お部屋の模様替えも行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「できること」「わかること」を職員は把握し支援している。玄関や浴室・トイレなど利用者様が安心して安全に自立した生活が送れるよう手すりを設置ハード面の見直しも行っている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	入居者様への食事介助ばかりではなく、話題提供などで楽しい食事雰囲気を盛り上げることが期待されます。	楽しい環境での食事支援	食事時間は、音楽を流しながら楽しい雰囲気づくりに取り組み、職員も一緒に食事が取れるような食卓配置を考える。	3ヶ月
2	20	各入居者様にとって居心地の良い居室作りへの更なる支援が期待されます。	安心できる居室作り	これまでと同様、入居前に使用されていた生活用品や家具を持ち込んでいただき、各居室に一人ではない入居者様のそばには皆がいるということが一目で分かるように、居室内に写真をたくさん飾り、安心できる環境を整える。	12ヶ月
3	3	毎回の運営推進会議の議事録を整備し、いつでも閲覧可能な状態にしておく事	運営推進会議議事録を掲示板へ張り、地域の方／面会者／家族様へ閲覧できる状態にする。	運営推進会議参加者メンバー(事業所側)の見直しを行い、管理者／計画作成担当者／主任だけではなく、介護スタッフも参加し、書記を担当していただき、運営推進会議参加者の発言を細かく記載していくことで、会議へ参加されておられない方へも、閲覧できるよう玄関入り口へ掲示するようにする。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。